



平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年11月13日

上場会社名 中部水産株式会社

上場取引所 名

コード番号 8145 URL <http://www.nagova-chusui.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 吉川 輝喜

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員

(氏名) 鈴木 祥司

TEL 052-683-3001

四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日

配当支払開始予定日

平成27年12月8日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	20,124	1.1	57	34.0	120	△6.1	69	△23.0
27年3月期第2四半期	19,910	3.9	42	57.0	127	34.5	89	41.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	3.87	—
27年3月期第2四半期	5.01	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	15,007		12,319			82.1
27年3月期	14,687		12,307			83.8

(参考)自己資本 28年3月期第2四半期 12,319百万円 27年3月期 12,307百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	4.00	—	4.00	8.00
28年3月期	—	4.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	4.00	8.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	42,000	0.7	150	13.6	260	△0.6	130	30.0	7.30

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期2Q	19,269,000 株	27年3月期	19,269,000 株
28年3月期2Q	1,452,919 株	27年3月期	1,452,706 株
28年3月期2Q	17,816,216 株	27年3月期2Q	17,907,023 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、経済政策や金融緩和策を背景に、企業業績や雇用・所得環境に持ち直しの動きが見られるなど、引き続き緩やかな回復基調で推移しましたが、中国経済をはじめとした海外景気の下振れ懸念などもあって、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当業界におきましては、水産物資源の管理強化や天候不順による不安定な漁獲状況に加えて、需要の低迷や市場外流通との競争激化により市場物流の低下傾向が続いており、海外の需要増による水産物調達コストの上昇が利益を圧迫する要因となるなど、引き続き厳しい事業環境が続いております。

このような外部環境のもとで、当社は、変化するマーケットや激化する販売競争に対応した集荷、営業活動を積極的に展開するとともに、業務の効率化や諸経費の削減を図るなど、収益の向上と企業体質の強化に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は、卸売部門が取扱数量の減少により微減収となりましたが、兼業部門の飼料販売が順調な受注で伸長し、20,124百万円(前年同四半期比1.1%増)となりました。経常利益は、諸経費の削減により営業利益が増加しましたが、営業外収益の減少により、120百万円(前年同四半期比6.1%減)となり、四半期純利益は、特別損失の発生により、69百万円(前年同四半期比23.0%減)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(卸売部門)

鮮魚は、輸入生鮮キハダの搬入減、サンマ、サバ類、アナゴの不漁、浜値高のホタテ貝柱の入荷減などによる売上減はありましたが、国内の生鮮キハダ、ブリ類、サワラ類の豊漁、冷凍マグロの赤身商品の需要増、ウナギ、サケ、ヤリイカの取扱数量の増加、車エビの単価高などにより増収となりました。

冷凍魚は、南方凍魚の漁獲減、冷ギンダラ、チリ産銀サケ、凍菜類の高値による低調な荷動き、冷バナメイエビの生産減による売上減があったものの、冷ホタテ、アルゼンチン赤エビ、トラウトサーモンの好調な荷動き、冷タルイカの原料販売の増加、品薄で引き合いの強い冷カニの売上増などにより増収となりました。

塩干魚は、魚卵製品、魚肉ソーセージの量販店を中心とした堅調な荷動き、コウナゴの取扱数量の増加と価格高などによる売上増はありましたが、ロシア海区での時サケの漁獲規制、冷ウナギ蒲焼の生産減、原料事情から値上げしたアジ、ホッケの開き物、玉子製品の取扱数量の減少より減収となりました。売上高は18,692百万円(前年同四半期比0.2%減)、営業利益は173百万円(前年同四半期比1.4%増)となりました。

(飼料工場部門)

養鰻用飼料は、国内向け飼料がシラス池入れ量の減少により販売数量が減少したものの、輸食用飼料の取扱数量が増加したことに加え、水産向け魚粉を含め、原料高の製品価格への転嫁も寄与し、売上高は889百万円(前年同四半期比36.5%増)、営業利益は52百万円(前年同四半期比26.2%増)となりました。

(食品加工場部門)

佃煮原料の切イカが新規販売先の開拓により売上増となり、ポット商品や黄金漬けなど惣菜物が伸長しましたが、焼ハタハタなどの委託加工物が減少し、原料高の価格転嫁も一部商品で進まず、微減収となりました。売上高は190百万円(前年同四半期比0.2%減)、営業損失は23百万円(前年同四半期は営業損失は21百万円)となりました。

(冷蔵工場部門)

塩鮭鱒、サンマ、青果物及び外国貨物の取扱量は減少しましたが、チリ産銀サケフィーレ、コンビニ向け冷凍食品、給食関係貨物の取扱いが増加し、売上高は296百万円(前年同四半期比5.8%増)、営業利益は27百万円(前年同四半期比9.6%減)となりました。

(不動産賃貸部門)

売上高は55百万円(前年同四半期比1.6%減)、営業利益は31百万円(前年同四半期比2.8%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の変動状況

当第2四半期会計期間末における総資産は、15,007百万円となり、前事業年度末に比べ320百万円(2.2%)増加しました。これは主に、現金及び預金の減少176百万円などがありましたが、投資有価証券の増加423百万円、原材料及び貯蔵品の増加162百万円などによるものであります。

負債は、2,688百万円となり、前事業年度末に比べ308百万円(12.9%)増加しました。これは主に、受託販売未払金の減少20百万円などがありましたが、買掛金の増加193百万円などによるものであります。

純資産は、12,319百万円となり、前事業年度末に比べ12百万円(0.1%)増加しました。これは主に、利益剰余金の減少2百万円などがありましたが、その他有価証券評価差額金の増加14百万円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物は、投資活動の結果、定期預金の払戻による純収入等により98百万円増加となりましたが、営業活動の結果、たな卸資産の増加等により203百万円、財務活動の結果、配当金の支払額等により71百万円それぞれ減少となったため、前事業年度末に比べ175百万円(3.3%)減少し、当第2四半期会計期間末には5,225百万円となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、平成27年5月15日に公表いたしました平成28年3月期の業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日平成27年11月13日に公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,842,971	2,666,403
受取手形及び売掛金	1,963,215	2,027,038
有価証券	3,499,996	3,600,000
商品及び製品	1,013,822	1,165,880
仕掛品	40,926	61,030
原材料及び貯蔵品	291,948	454,926
その他	64,122	77,286
貸倒引当金	△12,685	△12,276
流動資産合計	9,704,317	10,040,288
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	993,526	963,913
その他(純額)	742,912	739,740
有形固定資産合計	1,736,439	1,703,653
無形固定資産	10,189	13,506
投資その他の資産		
投資有価証券	2,305,190	2,728,719
その他	973,908	558,342
貸倒引当金	△42,768	△36,692
投資その他の資産合計	3,236,330	3,250,369
固定資産合計	4,982,960	4,967,529
資産合計	14,687,277	15,007,817
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,364,504	1,557,547
受託販売未払金	127,061	107,039
未払法人税等	25,280	25,736
賞与引当金	53,700	53,800
役員賞与引当金	12,500	—
その他	235,399	381,407
流動負債合計	1,818,446	2,125,530
固定負債		
退職給付引当金	472,392	474,797
その他	89,257	87,959
固定負債合計	561,649	562,756
負債合計	2,380,096	2,688,286

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,450,000	1,450,000
資本剰余金	1,045,772	1,045,772
利益剰余金	10,117,602	10,115,343
自己株式	△591,852	△591,910
株主資本合計	12,021,521	12,019,205
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	285,660	300,325
評価・換算差額等合計	285,660	300,325
純資産合計	12,307,181	12,319,531
負債純資産合計	14,687,277	15,007,817

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	19,910,698	20,124,643
売上原価	18,991,479	19,193,294
売上総利益	919,218	931,349
販売費及び一般管理費	876,245	873,780
営業利益	42,973	57,568
営業外収益		
受取利息	7,758	7,286
受取配当金	25,845	30,207
受取手数料	17,968	17,160
受取補償金	23,313	—
その他	9,993	9,392
営業外収益合計	84,877	64,046
営業外費用		
雑損失	0	1,545
営業外費用合計	0	1,545
経常利益	127,851	120,070
特別損失		
解約違約金	—	18,800
特別損失合計	—	18,800
税引前四半期純利益	127,851	101,270
法人税、住民税及び事業税	31,031	21,537
法人税等調整額	7,166	10,726
法人税等合計	38,197	32,263
四半期純利益	89,653	69,006

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	127,851	101,270
減価償却費	61,268	50,023
貸倒引当金の増減額(△は減少)	8,982	△6,485
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△12,210	△12,500
賞与引当金の増減額(△は減少)	△600	100
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△13,963	2,404
受取利息及び受取配当金	△33,603	△37,493
売上債権の増減額(△は増加)	△81,256	△57,665
たな卸資産の増減額(△は増加)	△222,126	△335,139
仕入債務の増減額(△は減少)	391,507	173,019
未払金の増減額(△は減少)	8,932	△40,888
未払費用の増減額(△は減少)	5,508	5,067
未払消費税等の増減額(△は減少)	12,520	△35,080
その他	△22,001	△21,852
小計	230,808	△215,219
利息及び配当金の受取額	33,598	37,114
法人税等の支払額	△100,453	△25,276
営業活動によるキャッシュ・フロー	163,952	△203,381
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△101,119	△200,000
有価証券の償還による収入	—	200,653
定期預金の預入による支出	△226,000	△23,000
定期預金の払戻による収入	26,000	424,000
有形固定資産の取得による支出	△29,963	△9,436
無形固定資産の取得による支出	△2,247	△4,987
投資有価証券の取得による支出	△1,249	△301,305
その他	△9,999	13,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△344,577	98,923
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△159	△57
配当金の支払額	△71,487	△71,158
財務活動によるキャッシュ・フロー	△71,647	△71,216
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△252,272	△175,674
現金及び現金同等物の期首残高	6,162,258	5,401,569
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,909,986	5,225,894

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	卸売部門	飼料工場 部門	食品加工場 部門	冷蔵工場 部門	不動産賃貸 部門			
売上高								
外部顧客への 売上高	18,731,975	651,666	190,794	280,084	56,178	19,910,698	—	19,910,698
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	15,997	—	4,728	54,533	—	75,259	△75,259	—
計	18,747,972	651,666	195,523	334,617	56,178	19,985,958	△75,259	19,910,698
セグメント利益 又は損失(△)	171,268	41,852	△21,304	30,917	30,693	253,426	△210,452	42,973

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△210,452千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	卸売部門	飼料工場 部門	食品加工場 部門	冷蔵工場 部門	不動産賃貸 部門			
売上高								
外部顧客への 売上高	18,692,955	889,643	190,356	296,420	55,268	20,124,643	—	20,124,643
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	46,254	—	4,282	52,407	—	102,945	△102,945	—
計	18,739,209	889,643	194,639	348,828	55,268	20,227,588	△102,945	20,124,643
セグメント利益 又は損失(△)	173,682	52,815	△23,389	27,937	31,545	262,590	△205,022	57,568

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△205,022千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。